

令和4年度 学校自己評価のまとめ

総数15名（職員6名 こども環境科6名 介護環境科3名）

4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切

1 教育理念・目標

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の理念・目標 育人材像(専門分野の特性の明確化)	職	4	2	0	0	3.7	3.4
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	0	3	0	0	3.0	
職業教育の特色の明確化	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	3	0	0	3.0	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想	職	2	4	0	0	3.3	3.0
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	2	1	0	2.7	
理念・目的・育人材像・将来構想などの学生・保護者等への周知	職	0	6	0	0	3.0	3.0
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	0	3	0	0	3.0	
各教科の教育目標、育人材像の学科等に対応する業界のニーズに向けての方向付け	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	2	1	0	2.7	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度と同数値であった。2項目で昨年度を上回り、2項目で下回った。

○5項目の中で「社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想」「理念・目的・育人材像・将来構想などの保護者や学生への周知」の評価が低く、充実に向けた取組が必要である。

・評価によって表出した課題と改善策

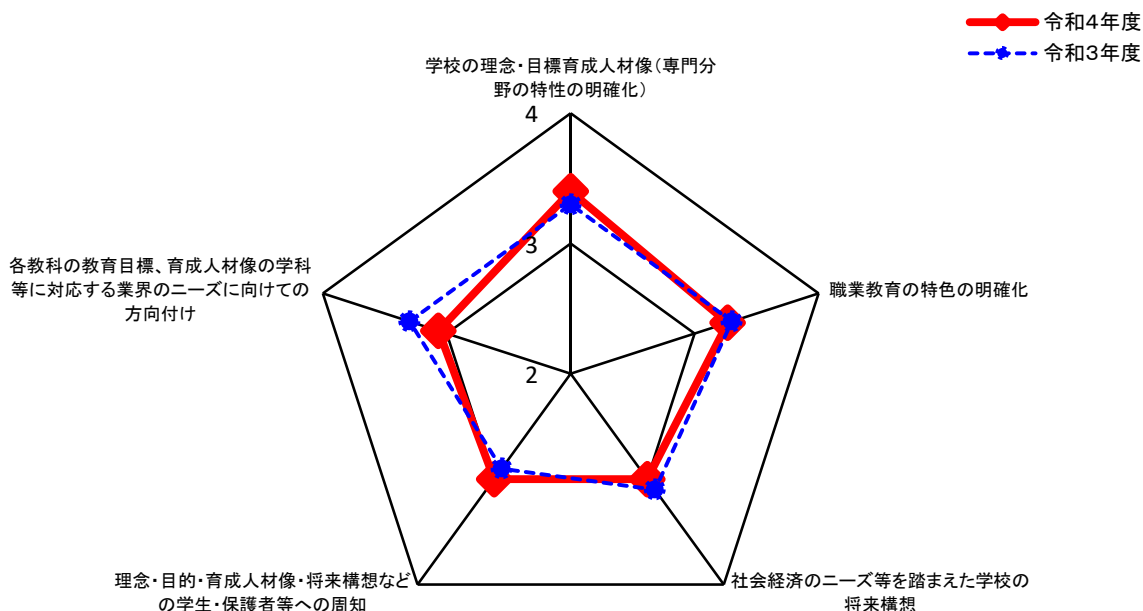
◎今年度も入学式後の保護者説明会(教育理念・目標の周知等)で、学校の考えや思い、保護者の協力依頼等について、各種資料をもとに直に伝えることができた。入学時だけでなく、それを発信し続けていく取り組み(ホームページ等)を検討したい。

◎教職員の努力を越える行政の壁(補助、助成ほか)が感じられる。

◎こども環境科は少子化が進む中、社会経済のニーズを踏まえられなくなる。学校の将来構想に希望を持ってない。将来構想について中期計画の説明がほしい。

◎自然と人間を愛する教育という教育理念に迫る具体策が乏しく感じる。

◎地域(釧路地域)のニーズを踏まえて、また、特色(よさ)を生かした教育のカラーを全面に出していく案を具体的に考えていけたらと思う。学生達、保護者のニーズも変化していると感じるため、そこに光をあて、目を向けたアイデアが必要と考える。



2 学校運営

		4	3	2	1	平均	総平均
目的に沿った運営方針の策定	職	2	3	1	0	3.2	3.1
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	3	0	0	3.0	
運営方針に沿った事業計画の策定	職	2	3	1	0	3.2	3.1
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	2	1	0	2.7	
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	職	1	4	1	0	3.0	2.8
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	2	1	0	2.7	
人事・給与の規定の整備	職	1	3	2	0	2.8	2.8
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	2	1	0	2.7	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	職	2	3	1	0	3.2	2.9
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
業界・地域社会に対するコンプライアンス体制の整備	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
教育活動等における情報公開	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	
情報システム化等による業務の効率化	職	0	5	1	0	2.8	2.7
	こ	0	4	1	1	2.5	
	介	0	2	1	0	2.7	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度より僅かに上回ったもののほぼ同数値であった。4つの項目で昨年度を上回っており、下回ったのは1つの項目だった。

○数値の低い「組織運営・意思決定機能の明確化・有効な機能」に「ティール運営」をどう結びつけていくかが課題である。

・評価によって表出した課題と改善策

◎ティール運営については、本校なりのとらえ方での取組が進められおり、その意味では定着してきている。「教職員同士フラットに。学生に対しても上から下への関りでなく、学生の現状を理解し距離を近づける。」という基本を大切に、相互理解を図りながら充実に向かっていきたい。

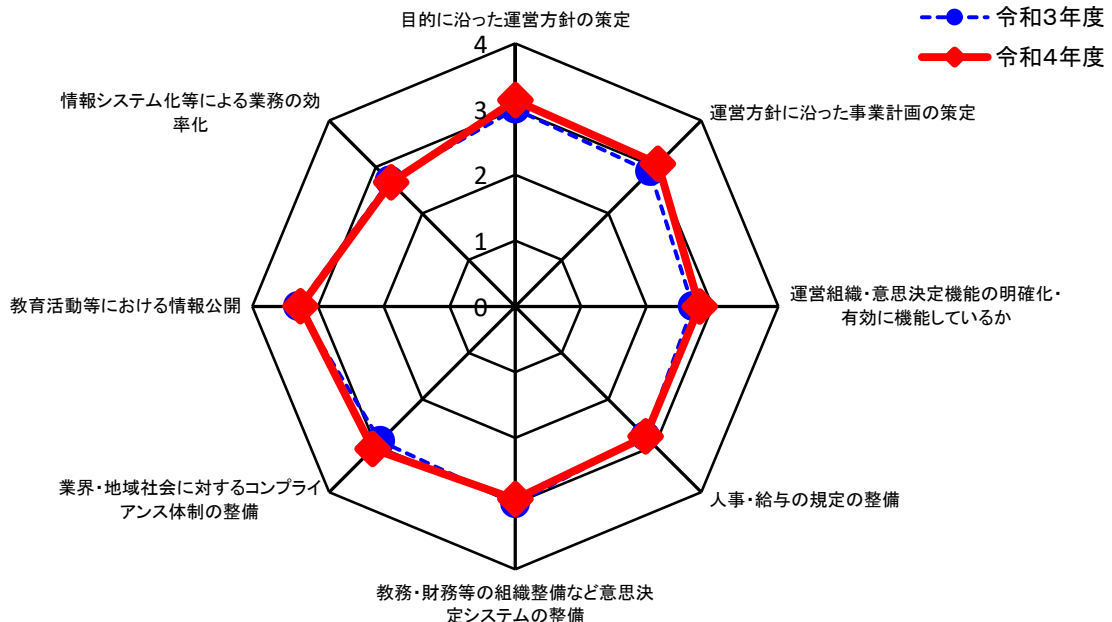
◎学校の努力が地域社会に浸透していないのが残念。

◎各種規定などを自由に閲覧できるように保管場所を変更する。
◎職員会議で活発に意見を交流できるような雰囲気作りが求められる。
◎PCを校費で支給し、業務で使用できるようにする。Zoomなどの使い方の研修。

◎情報のシステム化が進めば、もっと効率よく仕事が進むと思う。

◎研修にあったように職員間で尊敬し合えるようなあたたかい雰囲気だと学生に反映されると思う。

◎各教職員が、それぞれのよさを生かし、連携をとることを目指し、ある程度、意思決定が明確になるシステムを、ティール運営の中にとり入れ、積極的な意見が出せる環境作りを考えていく必要性を感じる。



3 教育活動

(1) 教育課程

		4	3	2	1	平均	総平均
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	
学科等のカリキュラムの体系的編成	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	職	2	4	0	0	3.3	3.2
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	1	1	0	3.0	
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度より僅かに上回ったもののほぼ同数値であった。3つの項目で昨年度を上回っており、下回ったのは2つの項目だった。

○全体を通して、概ねよい数値となっている。更なる充実を図りたい。

・評価によって表出した課題と改善策

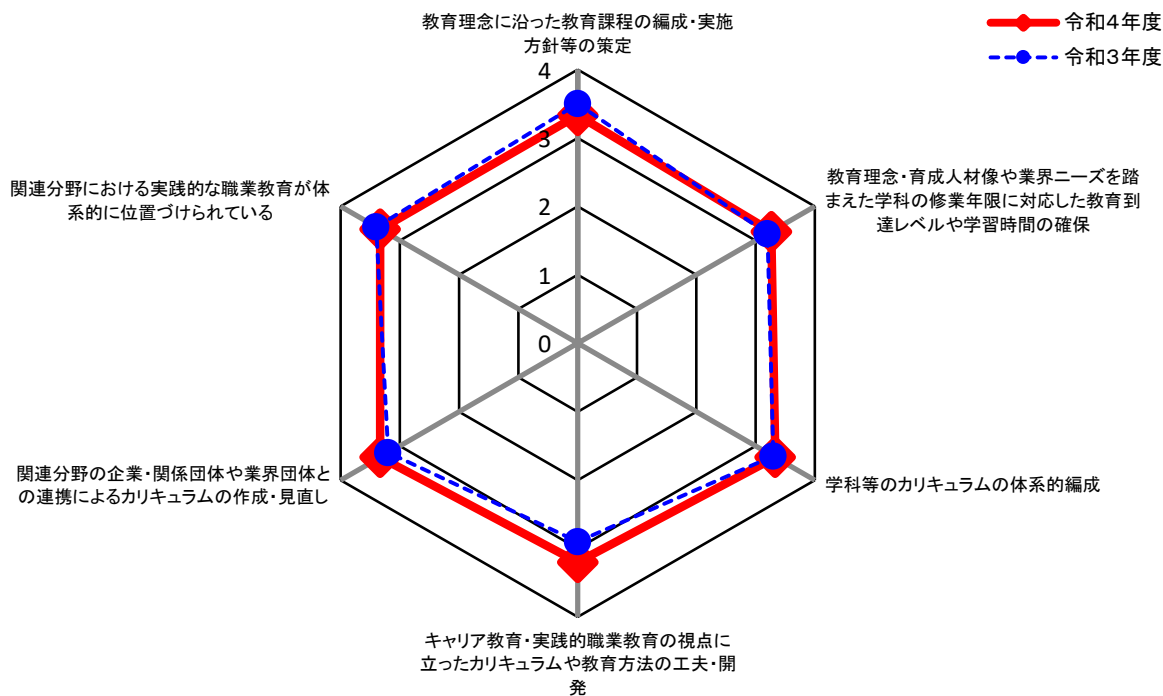
◎コロナ禍の中での3年目。企業等との連携については、コロナ禍前のように進めることは困難であったが、今年度も企業等の温かな対応により学習活動を進めることができた。心から感謝したい。

◎学校と地域社会との連携。このことにより専門学校との存在と必要性が認識されていく。

◎担当できる教員がいれば、カリキュラムをもう少し広げられると思う。

◎保育や介護現場のニーズを踏まえたカリキュラムになっている。

◎学生の現状を踏まえ、今の学生達が課題としていることに対して、どのような教育方法が有効か、工夫し、試していく中で、教職員も、やりがいをもって学生と向き合っていけたらよいのではと考える。



(2) 指導・評価

		4	3	2	1	平均	総平均
授業評価の実施・評価体制	職	4	2	0	0	3.7	3.4
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	0	3	0	0	3.0	3.4
職業教育に対する外部関係者からの評価	職	4	2	0	0	3.7	3.5
	こ	3	3	0	0	3.5	
	介	1	2	0	0	3.3	3.5
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化	職	1	4	1	0	3.0	2.9
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	1	2	0	0	3.3	3
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	3	0	0	3.0	3.3

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度より僅かに下回ったもののほぼ同数値であった。1つの項目が昨年度を下回った。

○全体を通して、概ねよい数値となっている。授業(指導)改善に結びつく公開授業及び学生による授業評価の継続するとともに、より多くの非常勤講師にもその輪を広げたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎年度当初に「講師会議」を開催することにより、学校の考えや思いを直に講師に伝えることができ、また講師からの声も受け止めることができた。学生の情報をどこまで共有するかが課題となっている。専任講師全員の公開授業及び学生による授業評価が定着してきた。評価をどう生かすかを更に検討したい。非常勤講師の協力も増えてきている。取組をより広げていきたい。

◎成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化については、校内研修の充実を図る中で取り組んでいきたい。

◎意欲の高い学生が増えてはいるが、学習意欲の乏しい学生も散見される。評価・評定にあたっては、相対評価をベースに、個人の成長・意欲も汲み取る絶対評価が必要になるのではないかな。

◎指導に対する意識が教員によってかなり大きな差があるように感じるので、教員の意識づくりに力を入れる必要がある様に感じます。

◎進級判定の基準について、TAとしてこまめに声をかけていかなければと考える。

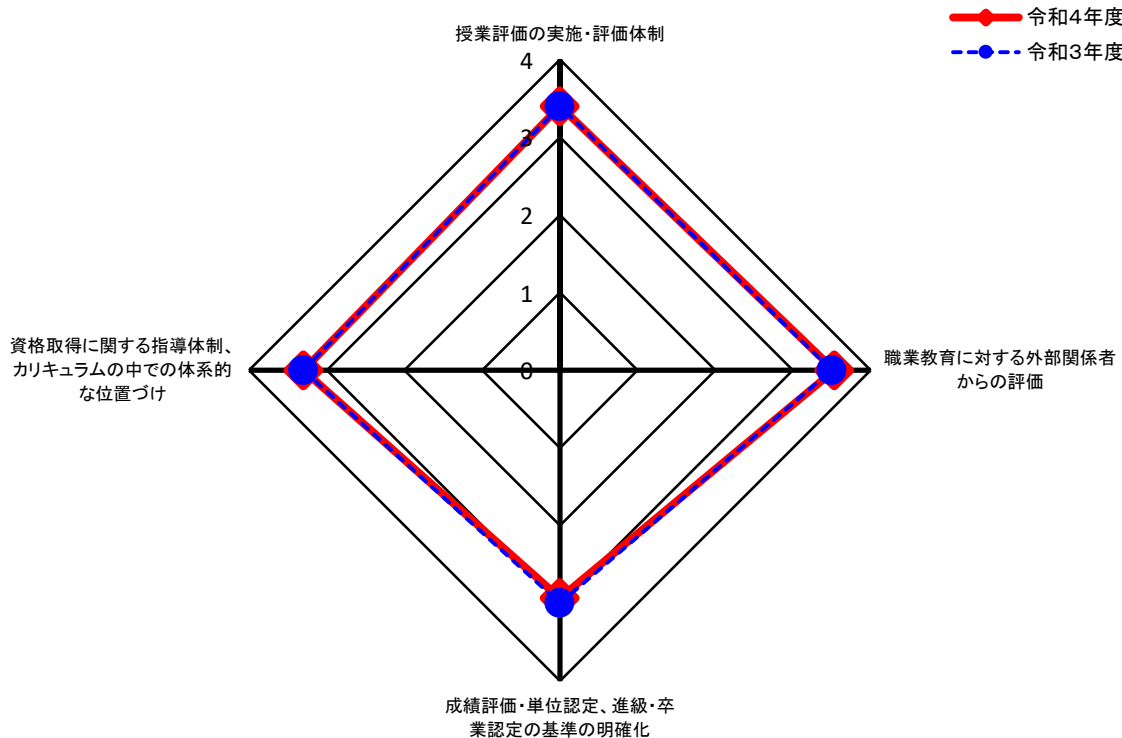
◎評価体制は確立されているが、発達の遅れをもつ学生に対応する指導法が確立されていない。

◎非常勤講師についても、学生からの授業評価があると指導の向上につながるのではないかな。

◎実習に関しては、実習中の指導が必要な学生に対するケアがより必要とされているのでは。

◎専任講師全員の公開授業、授業評価は実施できたが、非常勤講師は少ないため、来年度の講師会議でも協力を呼びかけ、取り組みを広げていきたい。

◎成績評価・単位認定については、基準が明確にあるが、専門学校の重要な位置づけである実習の評価について、まず実習前に実習に行くことが可能な基準に達しているかどうかの明確な評価基準をとり入れることを検討し、それに向けての力を学生につけていくことを考える必要性がまずとくみとして必須と考える。また、達しない場合の対応についても要検討。



(3) 教員・研修

		4	3	2	1	平均	総平均
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	職	1	3	1	1	2.7	2.9
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	1	2	0	0	3.3	
関連分野の業界等との連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	職	3	2	1	0	3.3	3.1
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	1	2	0	0	3.3	
関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み	職	1	4	1	0	3.0	3.1
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	
職員の能力開発のための研修等の実施	職	1	3	2	0	2.8	3.1
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がっており、すべての項目で昨年度を上回った。

○職員研修会を継続実施することにより、学生理解への学びが深まってきている。その学びを学生個人との具体的な関わりに活かしていくことが課題となっている。

○コロナ禍の中で今年度の研修はオンラインが多かったが、対面での実施も徐々に増えつつある。引き続き、専任教員個々の能力を伸ばす研修機会の確保(経済的援助等)が求められる。

・評価によって表出した課題と改善策

◎全職員を対象とした外部講師による「学生理解・支援」の研修も5年目を迎え、今年度は2回実施することができた。この3年間は、本校の学生・教職員に関わっていただいている非常勤講師による研修で、本校の実態に即した内容で共通理解・認識を深めることができた。次年度以降も継続して実施し、学生に関わる取り組みの充実を図りたい。

また、研究紀要は今年度は多くの専任・非常勤講師の実践を紹介することができた。本校取組の積極的な発信を継続していきたい。

◎教員の研修は、多忙な日常教育活動のあいまに、推奨するべきメニューを提示する。

◎自己の振り返りを行うことにも取り組んでいきたい。

◎フルタイムの教員を雇用を進めていきたい。

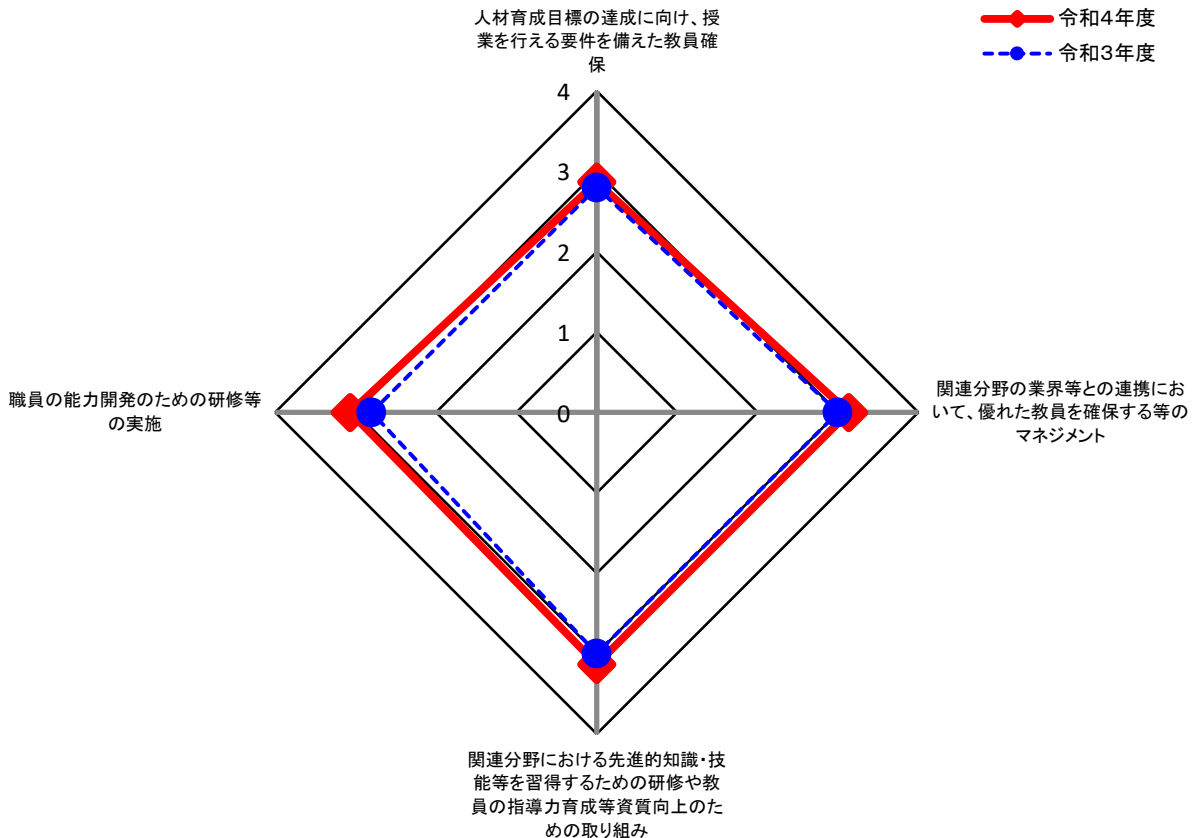
◎若手の人材確保がうまくいっていない。初任者研修が不十分。

◎学生の能力にもよるが、一部の学生から授業の内容等や、実習において要求される内容の指導についての改善の意見が聞かれた。

◎各先生それぞれ忙しいですが、研修等出来るのであれば、もう少しあった方が良いと思います。

◎全職員対象とした全体研修を今年度より年1回→年2回(8月と3月)に増やしたが、今後も学生理解を深めるための研修を継続していきたい。

◎研修の実施や外部の専門分野の方をお呼びしての授業の工夫はなされているが、学科間でのそういった情報の共有が十分でないと感じる面もあり、学校全体としての意識づけをし、高めあっていく関係づくりのシステム構築を考えてはと思う。



4 学修成果

		4	3	2	1	平均	総平均
就職率の向上	職	3	3	0	0	3.5	3.2
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	1	2	0	0	3.3	
資格習得率の向上	職	0	5	1	0	2.8	2.8
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	2	1	0	2.7	
退学率の低減	職	1	2	2	1	2.5	2.4
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	1	2	0	2.3	
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	職	0	6	0	0	3.0	2.9
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	1	2	0	0	3.3	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	職	0	5	1	0	2.8	2.7
	こ	0	3	3	0	2.5	
	介	0	3	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.2ポイント下がっており、昨年度を上回った項目が1、他の4つの項目が下回った。

○昨年度に引き続き、今年度も退学者及び休学者が多かったことから、「退学者の低減」の項目の評価が全項目の中で最も低い数値となっている学生との日常的な面談や相談活動を通したきめ細かな対応や、保護者との連携等をどう充実させていくかなど、組織としての在り方が問われている。

・評価によって表出した課題と改善策

◎この2年間は、退学や欠席・遅刻、授業への意欲の低下などの課題が目立ってきている。改善に向け日常的な学生への関わりをどう進めていくか、発展計画(本校の教育方針)に基づき「組織(チーム)」としての取り組みを進めていきたい。

◎卒業生の活躍や専門学校教育の重要性を時宜に応じて放送・新聞等のメディアを使って今迄以上に広報する必要がある。又、在学中には幅広い各種資格の取得が評価の後押しとなる。

◎退学率について、どのようにしたら改善するのか。学科だけではなく、学校として考えていく必要があると思います。

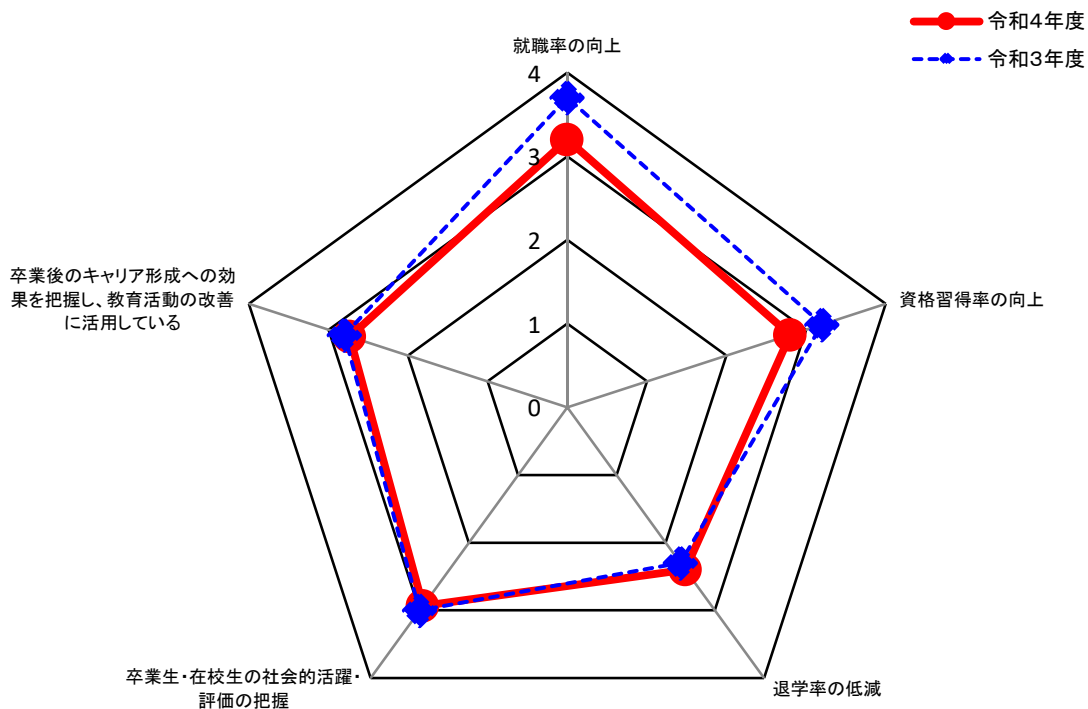
◎例年になく内定率・資格取得率が悪いので反省を込めて記載しました。0免卒業者が現役学生で出る予定である。退学となるよりは良いと思うが、実習先の指導者との関係から実習ができなくなってしまった。学科全体、例えばゼミ教員を中心に就職できるよう支援。

◎個々に応じた教育の改善はうまくいっている。しかし、卒業後のキャリア形成は不十分。

◎課題を持つ学生が入学後に授業についていけなかったり、実習で対応できず、退学することがあり、どの程度支援が必要なのか難しい部分がある。

◎学生の退学の低減になるかわかりませんが、何かがあった時、実習の前後だけでなく、定期的に個人面談をして、学生の声を拾って個々の状況を把握する事が必要と思います。

◎退学率の低減については、その原因と対策について十分に話し合いがなされていないことが課題と考える。多角的な視点でとらえて、原因・理由を探り、そのための校内の話し合いの場をもつことを検討し、教職員がお互いに前向きにとりくんでいけたらと考える。



5 学生支援

(1) 支援体制

		4	3	2	1	平均	総平均
進路・就職に関する支援体制の整備	職	1	5	0	0	3.2	3.1
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	0	3	0	0	3.0	
学生相談に関する体制の整備	職	0	4	2	0	2.7	2.8
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	0	2	1	0	2.7	
学生に対する経済的支援体制の整備	職	0	6	0	0	3.0	3.0
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	0	3	0	0	3.0	
学生の健康管理を担う組織体制	職	1	4	1	0	3.0	2.8
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	2	1	0	2.7	
課外活動に対する支援体制の整備	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	こ	1	3	2	0	2.8	
	介	0	3	0	0	3.0	
学生の生活環境への支援	職	0	6	0	0	3.0	2.7
	こ	0	3	3	0	2.5	
	介	0	2	1	0	2.7	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度より僅かに下回ったもののほぼ同数値であった。2つの項目で昨年度を上回っており、下回ったのは3つの項目だった。

○学生が学業や生活など多方面にわたる相談を気軽にできる温かな雰囲気作りを大切にするとともに、教職員から学生への積極的アプローチに取り組みたい。

○小規模校である良さを生かし、学生への声かけ、相談、支援等をきめ細かく丁寧に進めていく体制づくりを進めていきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎フルタイム勤務の専任講師が少ないことから、TA制度を進めるには困難さを伴うことは現実問題としてはあるが、様々な課題を持つ本校の学生に対する支援は必要不可欠である。「組織(チーム)」としてそれをどのように進めていくのか、知恵を出し合い前向きで建設的な対応を考えていきたい。

◎教員みんなが「カウンセラー」という気持ちで交流を図りたい。

◎就職については、2年TAが重責を負っている。学生の生活リズムの崩れなど、保護者との連携が必要なところがあるが、連携が取りづらいケースもある。

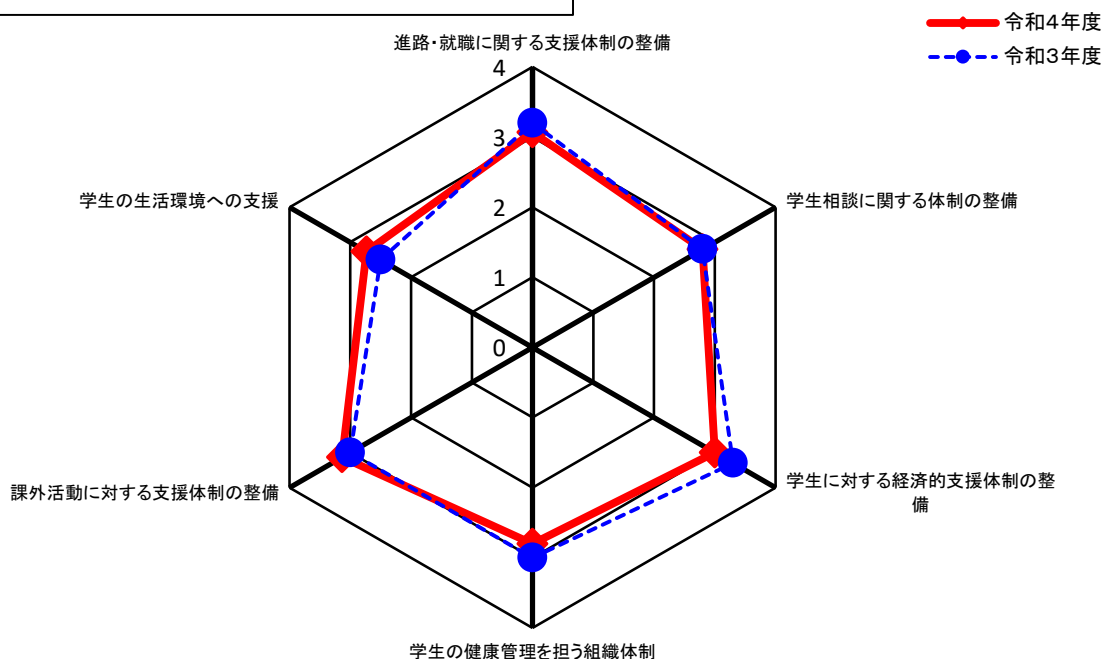
◎就職・学生相談にはそれなりの効果はあげているが、学生の生活環境の改善には問題を残している。

◎学科の中でTA以外の教員もフォローしあいながら学生の指導や相談ができた。

◎学生の精神的、肉体的ケアの体制については、できれば専任の人材確保があると良いと思われる。

◎本校の学生の中には、心のケアが必要な学生がいるように感じます。教員に出来る事には限度があるので、外部の専門家に頼るなどが出来ればと思います。

◎現状において、様々な個性の学生を受け入れる中で、自分自身、今までの価値観では推しはかれないところを多く悩みながらかわっているが、学生達はもちろん教職員も価値観の違いがあることを前提に、広い視野で、つながりをもって学生理解をすすめていくことが必要ではと考える。そのためには、退学までに及ばないことを含め、学生相談の体制を検討する必要があるのではないかと考える。TAひとりがかかえるのではなく、相談をどのように位置づけるかも考えて、学生のフォロー体制を検討し、卒業までを支援していきたいと思う。



(2)連携体制

		4	3	2	1	平均	総平均
保護者との適切な連携	職	0	5	1	0	2.8	2.9
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	1	1	1	0	3.0	2.8
卒業生への支援体制	職	0	5	1	0	2.8	2.9
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	1	2	0	0	3.3	2.8
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	職	0	6	0	0	3.0	3.1
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	2.9
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	職	3	2	1	0	3.3	3.1
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	1	2	0	0	3.3	3.3

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント弱上がっており、3項目で昨年度上回り、下回ったのは1項目であった。

○入学式後の保護者懇談会の有効活用だけでなく、高校からの情報(関わり方のアドバイス等)収集や、必要があれば入学前の保護者・学生との面談等にも取り組みたい。また、1年間の中で一度は保護者との個別面談を実施するなど、保護者との連携強化に取り組みたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎学生全員が「成人」ではあるが、本校学生の現状を考えると、保護者等との連携は必要不可欠である。学生との定期的な面談の実施はもとより、全保護者との面談を少なくとも年1回は実施し、連携強化に組み込みたい。特に、欠席・遅刻などの課題を持つ学生については、早い段階から保護者への情報提供を行い、タイムリーな面談を行いたい。また、「学生が自分の良さや持ち味を發揮できるように」という視点で、高校からの情報提供も全学生に広げたい。

◎卒業生は本校における大事な「人的資産」である。卒業生が気軽に学校に立ち寄れることこそ学校の評価につながっている。

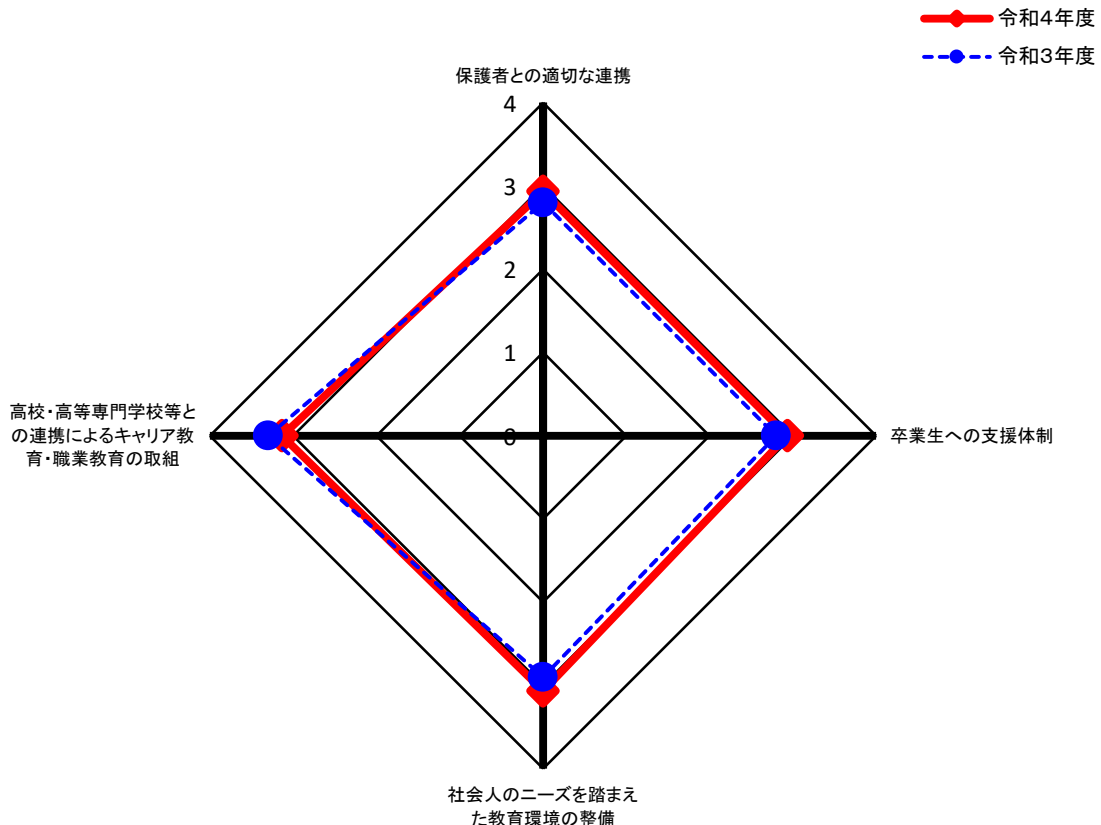
◎遅刻、欠席が多い学生には、単位を落とす前に早めに保護者と連絡をとるなど必要ではないかと思えます。

◎卒業生への支援体制、リカレント講座の案内位しかできていない。同窓会の実施も検討していきたい。

◎保護者とは個別に対応できているが、他の教育機関との連携や社会人のニーズにあわせた支援は不十分といえる。

◎高校側の進路体制の課題が測る事は出来ないが、必要最低限の資質が適当かどうかの判定やアドバイスも必要なのではないか。

◎保護者との連携については、教職員のスキルも必要と思われるので、保護者相談といったくりでも、スキルアップが必要と感じる。



6 教育環境

		4	3	2	1	平均	総平均
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている	職	1	4	1	0	3.0	2.5
	こ	0	2	2	2	2.0	
	介	0	1	2	0	2.3	
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している	職	4	1	1	0	3.5	3.1
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	3	0	0	3.0	
インターンシップ、海外研修等について体制の整備	職	1	2	3	0	2.7	2.6
	こ	0	4	1	0	2.8	
	介	0	1	2	0	2.3	
防災に対する体制の整備	職	1	5	0	0	3.2	2.8
	こ	0	3	3	0	2.5	
	介	0	2	1	0	2.7	

網掛けは前年度平均

○昨年度は一昨年度と比べ総平均値が0.3ポイント上がったが、今年度は昨年度と比べ若干下回った。2項目で昨年度を下回り、上回ったのは1項目であった。

○昨年度大きく向上した「施設・設備」「実習施設」の項目は若干下回った。教育環境向上の予算立ては難しい状況にはあるが、釧路市の助成を活用した「設備の充実」に計画的に取り組みたい。老朽化に伴う、短期、中長期的な計画的改修、改善の必要性が大きな課題として継続している。

○専任教員の人数や勤務形態の関係から、災害時の避難誘導・安全確認等(避難訓練を含め)どう進めていくか、今後も検討を続けていきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎老朽化施設・設備の修繕・整備が喫緊の課題となっているが、「古いけれど清掃が行き届き、整理整頓がなされている学校」「校舎を大切にしている学生」に取り組むことはできるので、学生・教職員が心を一つに素敵な学校づくりに取り組んでいきたい。避難訓練については、昨年度から取り組んでいる「学生の力の活用」を更に進めていきたい。

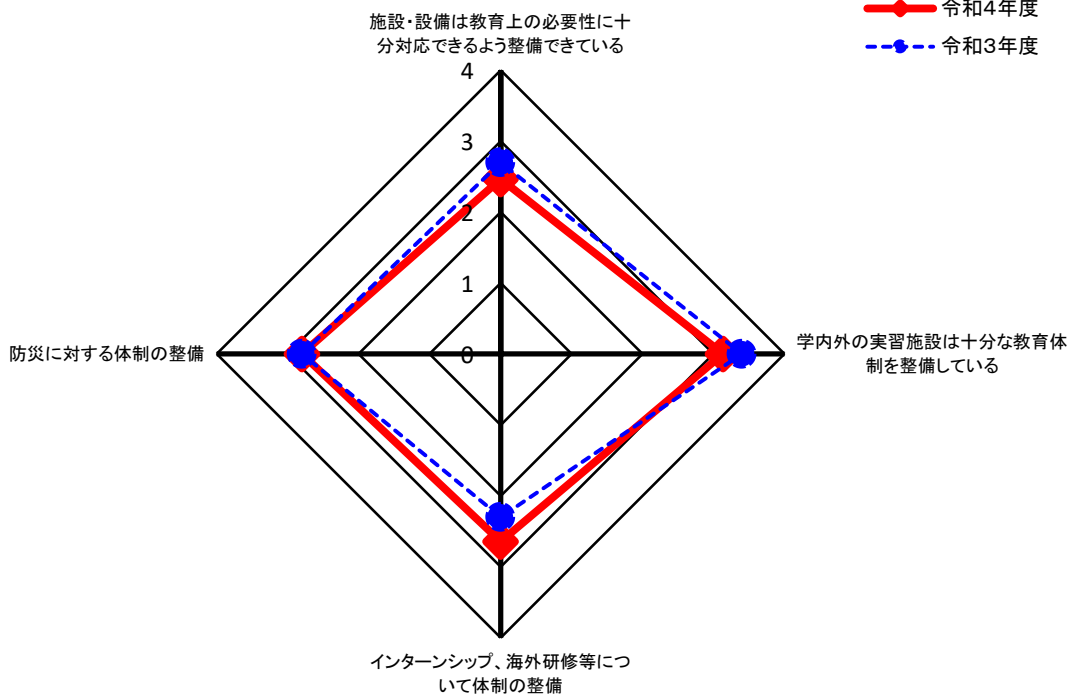
◎市補助金を利用して色々な部分が整ってきました。

◎優先順位を決めて修繕を進めていく。PCも順次入れ替え(購入)が必要。

◎防災対策は不十分、校舎の修繕、トイレの洋式化・改善(衛生的)などに課題を残している。

◎磁石がつく黒板だとスムーズに演習ができると感じる。

◎ピアノのメンテナンス、調律など、学生の音感に影響が出ない対応が必要。



7 学生の受け入れ募集

		4	3	2	1	平均	総平均
学生の募集活動は適正に行われている	職	2	4	0	0	3.3	3.2
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	3	0	0	3.0	
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている	職	3	3	0	0	3.5	3.2
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	2	1	0	2.7	
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている	職	5	1	0	0	3.8	3.3
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	0	3	0	0	3.0	
学納金が妥当なものになっている	職	5	1	0	0	3.8	3.5
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	1	2	0	0	3.3	

網掛けは前年度平均

○1つの項目で前年度を下回った。総平均値は若干下がったものの、大きな変動ではなかった。

○大項目13のうち最も高い数値となっている。広報を中心に、ホームページ、広報誌、学校訪問など様々な場や機会を通じて学校の教育活動や魅力発信を積極的に進めており、今後も充実を図っていきたい。

○学生募集(入学生増)に教職員一人一人がどう関わっているのかが課題であるとの共通認識に立ち、取り組んでいきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

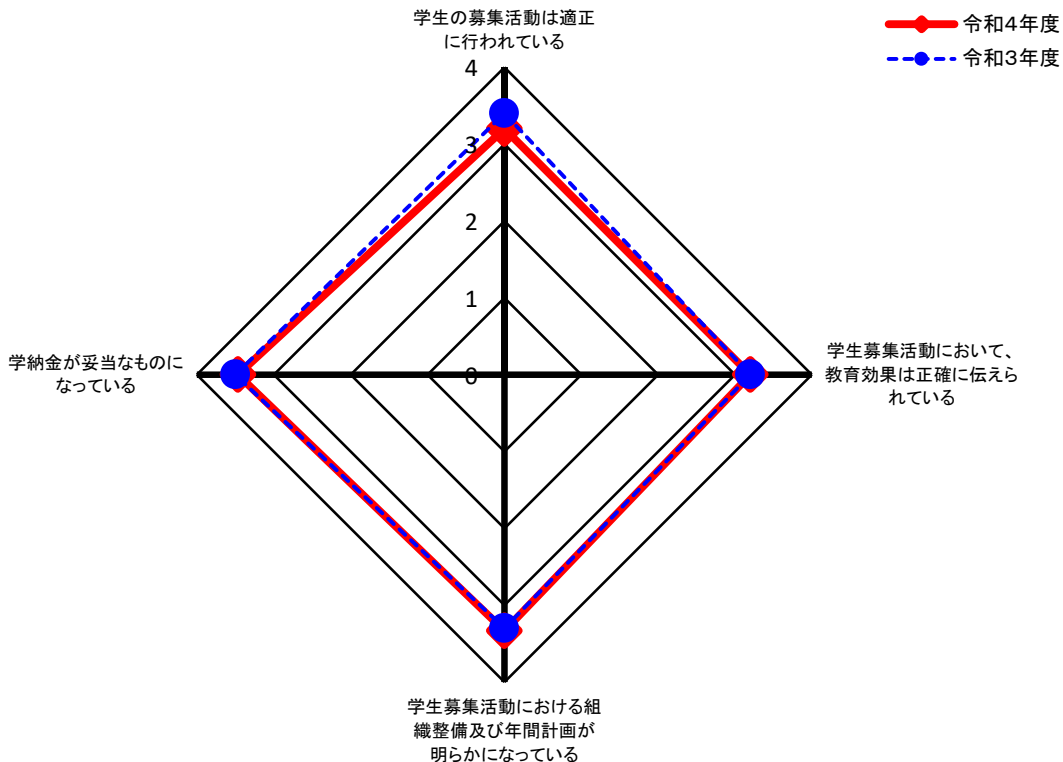
◎コロナ禍の中ではあったが、ホームページ充実(教育活動・学生の頑張りの紹介)、高校訪問への取り組み、ニュースマガジンSenSenの発行(昨年度復活)など、広報担当者の努力は高く評価できる。今後の高卒生激減の中、学校生き残りのため、広報担当者だけに任すのではなく、教職員一人一人が改善策や自分ができることを考え、取り組んでいく必要がある。

◎附帯事業部の学生募集が本科に比べると劣っている。SNSでの発信、学生向けと施設向けで募集チラシ等の伝え方に変化を付けるなど工夫をして学生募集活動を行って行きたい。

◎学生募集活動の1つとしての進学相談会に対応できる教員が少ない。経験のある教員とペアで面談するなど、対応できるようにしたい。

◎学生の募集活動は妥当といえるが、社会人やインターネット入試などに対応していく課題が残されている。

◎中学生の上級学校体験が増えるような取り組みが必要では。



8 財務

		4	3	2	1	平均	総平均
中長期的に学校の財政基盤は安定している	職	1	3	1	1	2.7	2.7
	こ	0	4	2	0	2.7	
	介	0	2	0	0	3.0	2.6
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている	職	1	3	2	0	2.8	2.9
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	2	0	0	3.0	2.5
財政について会計監査が適正に行われている	職	4	1	1	0	3.5	3.2
	こ	0	5	0	0	3.0	
	介	0	2	0	0	3.0	3.3
財務情報公開の整備はできている	職	2	3	1	0	3.2	3.1
	こ	0	5	0	0	3.0	
	介	0	2	0	0	3.0	3.1

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がった。昨年度を上回った項目は2、下回ったのは1項目だった。

○財政基盤の安定に最も関わっている学生増や退学者の低減が極めて大きな課題となっている。

・評価によって表出した課題と改善策

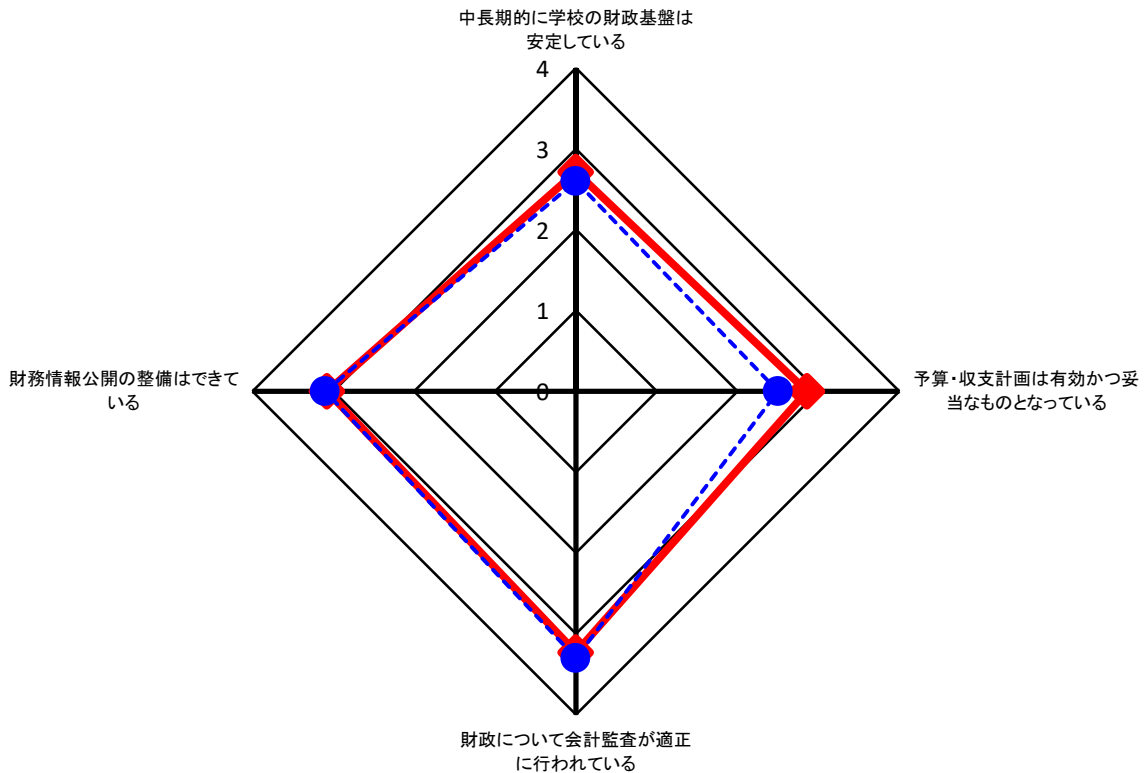
◎学生数が増えること、退学率の低減が財政基盤の安定につながることから、前項「7 学生の受け入れ募集」に記載されて取り組みを充実していきたい。

◎学生数の減少が続いており、日々不安です。

◎学生が減っており、財政基盤が不安定になっている。学生増に向け、知恵を出しあっては？

◎今後の財務については、専門学校単独の経営はむずかしいと思われる。今後の将来展望を示してほしい。

—●— 令和4年度
-●- 令和3年度



9 法令の遵守

		4	3	2	1	平均	総平均
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	3.3
個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	職	4	2	0	0	3.7	3.2
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	3	0	0	3.0	3.1
自己評価の実施と問題点の改善を行っている	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	0	2	1	0	2.7	3.1
自己評価結果の公開	職	5	1	0	0	3.8	3.4
	こ	0	6	0	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	3.5

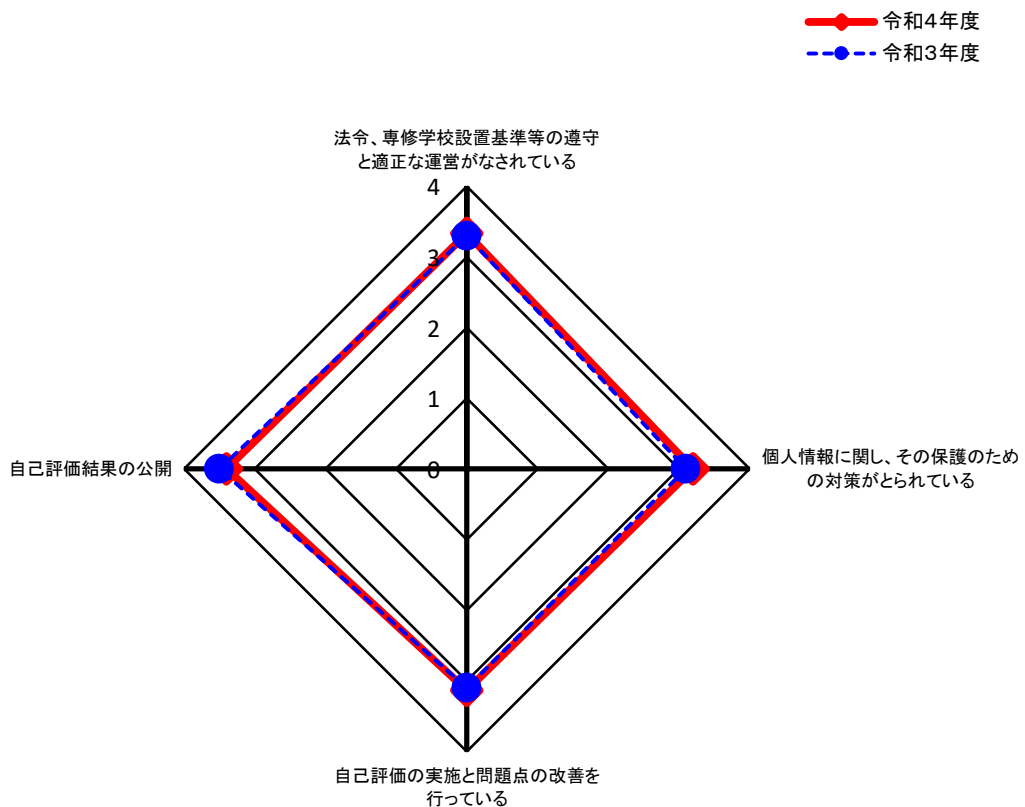
網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度と同数値であった。前年度を上回った項目、下回った項目はそれぞれ1項目だった。

○昨年同様、高い数値となっている。

・評価によって表出した課題と改善策

- ◎自己評価の改善が進んでいない。
- ◎法令遵守はおおむねされている。



10 社会貢献・地域貢献

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	0	2	1	0	2.7	
学生ボランティア活動を奨励、支援している	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	1	5	0	0	3.2	
	介	0	3	0	0	3.0	
地域に対する公開講座等を積極的に実施している	職	2	4	0	0	3.3	2.9
	こ	1	4	1	0	3.0	
	介	0	0	3	0	2.0	
教育訓練の受託等を積極的に実施している	職	5	1	0	0	3.8	3.7
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	3	0	0	0	4.0	

網掛けは前年度平均

○コロナ禍の中での活動の難しさはあったが、総平均値は0.1ポイント近く上がっており、3つの項目が昨年度を上回り、下回った項目はない。(昨年度は一昨年度を0.2ポイント下回っている)

○大項目13のうち最も高い数値となっている。コロナ禍の4年目、社会貢献・地域貢献に向けどのような活動に取り組めるかを学生会を中心に模索していきたい。

・評価によって表出した課題と改善策

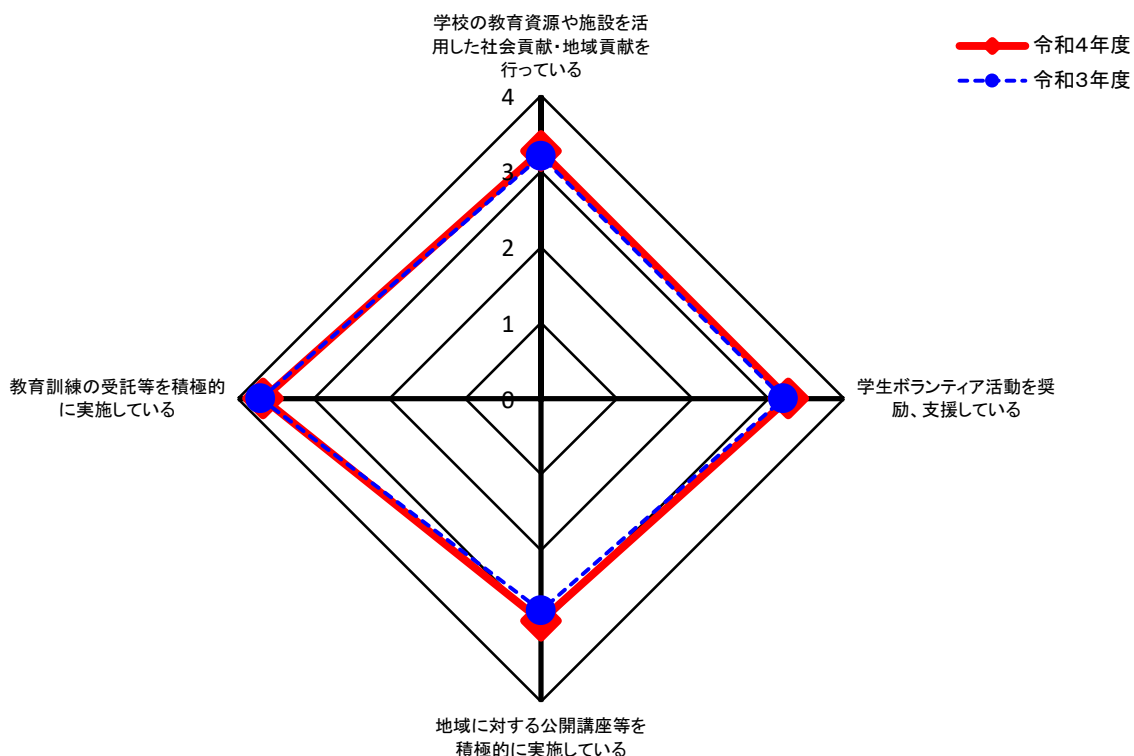
◎社会貢献・地域貢献については、学校として意識的に取り組りくみ、高い評価をいただいているところである。今年度は地域清掃等を実施したが、この3年間はコロナ禍の中にあつて、十分な取組ができていない状況であつた。社会が「感染防止対策と社会・経済活動の両立」に進んでいることから、次年度はどのような取組(学校祭、釧路の自然再発見シリーズ、地域における教育活動の発表の場など)ができるかを考えていきたい。

◎地域を支える学校、これは先生方の教育活動の認知でもある。専門学校の先生はいろいろやっているなあという漠然とした評価でも社会・地域貢献の一端となり得る。

◎社会貢献や地域貢献はおおむねされている。

◎くしろせんもん学校をもう少し知っていただくために、何か出来る事はないでしょうか？

◎幼稚園、保育園、小学校、高齢者施設など、専門分野において地域とかかわる・つながりがもてる可能性のある場が近くにあるので、学生の体験的な学習として、授業内容に組みこむなど、取り組みを工夫するなどはどうかと考える。



・その他の課題(全体的に)

◎学校全体が築年数が経過して、修理が必要な部分が見受けられます。学生が安全に学校生活を送れるよう、考えなくてはならないと感じます。

◎高齢化社会、少子化社会等々、すぐれた若者たちのニーズは高い。このニーズを満たすためにも本校の存在意義は高い。

どう世間に認知させていくか、市などを巻き込んだ福祉・少子化対策フェアなどを年に2回くらいは必要なのは。

・考えられる改善策

◎勤務時間や待遇など若手教員が長くいられる体制づくりが必要。

※自己評価結果について

○学校自己評価も回を重ね8回目の実施となりました。今年度は大項目13のうち6項目が前年度の平均値を上回りました。そのうち、0.1ポイント以上増の大項目は「3 教育活動(3) 教員・研修」と「8 財務」でした。前年度の平均値を下回ったのは5項目でしたが、下回った数値はすべて0.1ポイント未満で大きな変動はありませんでした。

○平均値が3未満の項目は、最も低かったのが「6 教育環境」。続いて「4 学修成果」、「5(1) 支援体制」、「2 学校運営」、「8 財務」などとなっています。また、最も高かったのは「7 学生の受け入れ募集」と「10 社会貢献・地域貢献」。続いて、「3 教育活動(1) 教育課程」、「3 教育活動(2) 指導・評価」、「9 法令の遵守」などです。なお、最高値と最低値の差は、0.5ポイントでした。

○全項目61の中で最も低い数値だったのは、「退学率の低減(2.4)」」。高かったのは「教育訓練の受託等の積極的な実施(3.7)」でした。

○全項目の平均値(3.1)は、前年度と同数値でした。

○今年度を振り返ると、次年度に引き継ぐ課題は数多くあります。次年度、特に重視すべき課題は、残念ながら今年度同様の内容になりましたが、以下のように考えます。

- ①ティール運営への対応(充実)
- ②授業評価(公開授業)の継続(非常勤講師についても)
- ③全職員(非常勤講師も含む)対象の研修継続
- ④組織としての学生支援への取組(外部の専門的な力の活用/退学者減への取組)
- ⑤学校の魅力発信・学生募集
- ⑥卒業生の力の活用
- ⑦地域との結びつき(地域貢献・活動)
- ⑧保護者、高校等との連携(定期面談の設定、全学生の情報収集など)

○わが国では、昨年から「感染防止対策と社会・経済活動の両立」にシフトチェンジされ、次年度からは3年間我慢を強いられてきた「マスク、集会等」も大きく緩和されます。教育活動もコロナ禍前の状況とまでは行かないでしょうが、多くが可能になってくるものと思われます。各評価の数値や意見について(今後実施する学校関係者評価の結果もあわせて)教職員全員が真摯に受け止め、次年度はその改善策や方策について考え、実践していくことができればと思います。